

ワークシート 例

○年△月□日 [1]歳児 (11月) 場面 あれ?影ないね

○子供の姿を捉える ※エピソード記録、写真、動画、記憶等を用いて、印象的だった子供の姿を挙げる。 ※特に印象的なことや、「育ちにおいて大切な姿」と思うことができるだけ具体的に思い出す。	○子供の姿の意味を捉える ※印象的な子供の姿に該当するものを「育みシート」の中から探す。	○子供に育まれようとしている力や、姿の背景や原因を探る ※この場面で子供にどのような力が育まれようとしているのか、また、そのような姿が見られた背景や原因は何なのかを探り、保育者の関わりは適切であったのかについて考える。	○指導計画や環境構成を考える 得られた気づきや発見をもとに、「育みシート」に書かれている先の育ちを見通しながら、次の指導計画や環境構成を考える。
<p>やわらかな朝の陽射しが保育室に降り注ぎ、<u>子供たちが、風に揺れる窓際のカーテンの影を見つめている。手で押さえてみたり、影を捕まえようとしてみたり、揺れるカーテンに隠れたり現れたりする影を、興味津々で見ている。</u></p> <p><u>影がなくなると不思議そうに、「あれ?」と、どこに行ったかを探したり、「ないね、ないね。」と、なくなつた影を確認しようとしてみたりする姿が見られる。</u></p> <p><u>「Aちゃんの手の影も映っているよ」と声をかけると、A児(1歳8ヶ月)は、不思議そうに手を動かし、自分の手の影ができたことを発見し、確かめている。みんなも、それぞれ自分の手を動かし、手の影を追ってみる。</u></p> <p>風が吹いて影ができると、<u>顔を見合わせて笑い合い、「やったー!」と喜んで、カーテンの影の動きをじっと見ている。</u>カーテンの動きによってできる影の動きが面白く、<u>影が動くのを追うように手で押さえたり、腹這いになって体で影を全部隠そうとしてみたりしている。</u></p> <p>一人の子供が影を隠そうとすると、まねをして同じように手を当てたり、寝転んで影を隠したりしてはしゃぎ、<u>みんなで影を隠そうとしている。</u></p> <p><u>「不思議だね。なくなつたね。」と声をかけてみると、みんな顔を見合わせ、笑い声がたくさん出てくる。</u></p> <p>みんな、影を隠すことに夢中になっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で移動することで視界が広がり、人やものとの出会いが増えていくにつれ、探索活動が盛んになる ・「これはなあに?」など、自分の興味や関心があるものやことについて尋ねる ・身近な大人に自分の思いやしたことを代弁してもらうことで、声や言葉、身振りで伝えるようになる ・自分がしたいこと、したことを身近な大人に受容、共感してもらうことで、安心感や自己肯定感を得る ・身近な大人に見守られていることを確認しながら、興味や関心がある方へ自分から向かっていき、触れたり遊んだりする ・生活や遊びを共にする中で、友達に興味や関心、また親しみをもち、自ら関わろうとする ・保育者や友達と一緒に遊ぶことを楽しむ ・自分の興味や関心に応じて自由に歩く、走る、跳ぶなど、充分に体を動かす 	<ul style="list-style-type: none"> ・最近活発に動き回るようになって、いろいろなものに興味津々だった ・動くカーテンの影を見付け、不思議さを感じる 「感じる・気付く力」 ・一緒に探す楽しさをみんなで味わう 「人とかかわる力」 ・保育者が「Aちゃんの影も映っているよ」と声をかけた。 ・保育者の言葉で、自分の手の影ができていることに気づき、動かして確かめている 「考える力」 ・影の不思議さを楽しむ 「感じる・気付く力」「うごく力」 ・近くに友達が3名おり、同じように影に興味を示していた ・みんなで一つのことを楽しみ、喜びを共感する 「人とかかわる力」 	<ul style="list-style-type: none"> ・面白い発見をしている姿を見守りたい →保育者が環境とそれに関わる子供たちの心情や行動に気づき受容的・応答的な関わりをする ・保育者の発見を伝えて、遊びの面白さを広げたい →まずは、子供たちの興味や関心がどこにあるかを見取することを大切にする ・影や形の面白さ、不思議さを楽しめる環境作り →身近なもので影遊びなど ・友達と一緒に楽しいという気持ちを育みたい ・友達と共感し合う体験してほしい →子供同士をつなぐために、保育者が仲介役となって一緒に楽しむ →自然に動くものをみんなで見付ける →自分や友達の影を探る、影を見ながら体を動かして遊ぶ、など

それぞれの項目を往還しながら、話し合いを深めていく